

令和 7 年 6 月 30 日
消防庁消防研究センター

令和 7 年度 消防防災科学技術賞 応募作品について

本表彰制度は、消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、平成 9 年度から実施しています。

令和 7 年度においては、作品募集が 4 月 18 日(金)に締め切られ、全国の消防機関、消防機器メーカー等から、総計 70 編（消防防災機器等の開発・改良 41 作品、消防防災科学論 17 作品、原因調査事例 12 作品）の応募がありました。

今後、審査を経て、9 月頃受賞作品が決定される予定です。

- 資料 1 令和 7 年度消防防災科学技術賞 応募作品一覧
- 資料 2 令和 7 年度消防防災科学技術賞 応募作品概要

連絡先

消防庁消防研究センター 研究企画部
電話 0422-44-8331(代表)
メールアドレス : hyosho_nrifd8@soumu.go.jp

令和7年度 消防防災科学技術賞 応募作品一覧

A消防職員・消防団員等の部における消防防災機器等の開発・改良

作品番号	作品名	主たる応募者
A	スプリンクラーヘッドを用いた散水設備による熱中症対策について	新潟市消防局/佐藤祐輔
A	飲食店からの火災を減少させるための一方策～離隔距離の重要性が分かる「壁体施工模型」の活用～	京都市消防局/北川龍彦
A	交通事故防止教育を目的とした緊急走行VRの共同開発	姫路市消防局/山口晋吾
A	特殊災害用乾的除染袋「HOTATE」の開発	姫路市消防局/山口晋吾
A	指令台機能不全時の代替システム	堺市消防局/島尾賢
A	ケーブル巻きによるロープ収納	江別市消防本部/草沢友喜
A	山林・密集地住宅火災対応資機材	和泉市消防本部/田中数也
A	廃棄ホースを有効活用した防災担架(改良版)	志摩市消防本部/阪口雅浩
A	廃棄防火服を活用した隊員保護衣の考案について	埼玉県南西部消防局
A	潜水活動におけるダイバー安全確保システムの開発について ～クイックリリース対応ダイバーロスト防止器具の開発	岡山市消防局/渡邊敏規
A	簡易自火報訓練装置の開発 ～手軽さと実効性を両立した自火報訓練装置の提案～	乙訓消防組合消防本部
A	火災調査業務における3Dデータ及び図面作成UIの活用	藤沢市消防局
A	緊急離脱機能付きペアラインの開発について	大阪市消防局/宮野博幸
A	廃棄ホースのカップリングを活用した漏水防止器の開発	大阪市消防局/宮野博幸
A	違反対象物管理アプリ(VOMA)	大阪市消防局/邑智崇洋
A	危険物算定アプリの開発	大阪市消防局/大野真嗣
A	SUZUKA電動式消火シューター	鈴鹿市消防団/宮崎美憲
A	AR消火栓アプリの開発	白山野々市広域消防本部/松林大司
A	屋内進入時における空間温度感知警報器の考案について	東近江行政組合消防本部/満田圭亮
A	バインダー型薬剤管理ツール	東近江行政組合消防本部/入江優太
A	12誘導心電図の貼付位置が一目で分かるシート	東近江行政組合消防本部/森田修次
A	斜頸に対応するネックカラーの考案について	東近江行政組合消防本部/森田真一
A	消火栓ポールに貼付する「浸水深表示テープ」の開発と豪雨時の視認性の検証	衣浦東部広域連合消防局/小池裕介
A	セーフティースピンドルガイド	浜松市消防局/桑原輝之
A	蓄光治具「光イチロー」を活用した災害現場における安全管理の向上	浜松市消防局/村松弘一郎
A	仮想空間(メタバース)で防火防災を学ぶ!「fire-X kuRe ～未来を守るバーチャル防火防災～」の制作	呉市消防局/小川武志
A	記入箇所と手順を可視化する「トリアージタグテンプレート」の考案	倉敷市消防局/石井健

令和7年度 消防防災科学技術賞 応募作品一覧

A消防職員・消防団員等の部における消防防災機器等の開発・改良

A	福祉施設等に設置する居室内避難状況可視化システムの開発	松山市消防局/宮田直史
A	アウトリガー用敷板の改良	永平寺町消防本部/梨木悠
A	エンジンカッターディスクガードの改良について	福岡市消防局/華江流星
A	ホース落下防止用バンドの開発について	福岡市消防局/澤見悠太郎
A	廃棄ホースを活用したマルチホースバンド	湖南広域消防局/谷口祥
A	マルチローラーの開発	湖南広域消防局/齋藤志
A	トリアージランプ	東京消防庁/市原祐輔
A	頭展開用携帯式枕	東京消防庁/市原祐輔

令和7年度 消防防災科学技術賞 応募作品一覧

B消防職員・消防団員等の部における消防防災科学論文

B	自動音声テキストによる業務効率化について	甲賀広域行政組合消防本部/片岡佳樹
B	ホイスト活動における回転現象の原因解明及び対策	兵庫県消防防災航空隊・神戸市消防局警防部 航空機動隊/岩倉徹
B	水難救助現場におけるEMSターポリン担架の活用について	京都市消防局/祝井淳希
B	「セットバック」～ホースの延長方式について～	神戸市消防局/水門浩一
B	大規模災害時における広範囲検索活動時の情報管理に関する研究	奈良県広域消防組合/町田吉隆
B	サイロ内における生き埋め事故の救出要領についての考察	大阪市消防局/新宮雅人
B	消防署内土足禁止の取り組みについて	浜松市消防局/岡村紀久美
B	位置情報共有アプリを使用した山林火災防御について	福岡市消防局/矢野淳志
B	現場指揮所のDX化～消防活動の効率化と負担軽減を目指して～	神戸市消防局/安岡恒暢
B	可燃物の燃焼理論に基づく区画火災性状の簡易予測―区画 内平均温度を用いた質量減少速度の算定	東京消防庁/後藤大輔
B	消防活動時の休憩における効果的な身体冷却に関する研究	東京消防庁/佐々木航
B	震災時の火災調査効率化とDXの費用対効果	東京消防庁/平山雅晴
B	生理学的指標を用いた消防隊員の緊張度に関する研究	東京消防庁/舘岡俊樹

令和7年度 消防防災科学技術賞 応募作品一覧

C消防職員による原因調査事例

C	パワーステアリングホースが発熱して出火に至った事例	福岡市消防局/川越怜史
C	クラウドファンディングで購入した製品からの出火について	大津市消防局/朝田秋平
C	火災熱によるリチウムイオン電池の焼き痕跡について	東大阪市消防局/中西勇人
C	電力線から車体への地絡により発生した電車火災について	神戸市消防局/藤本泰生
C	ポータブルバッテリーの基板から出火した火災の原因調査について	徳島市消防局/木村誠
C	ラジコン草刈機から出火し製品の改善に至った事例について	備北地区消防組合消防本部/佃昌弘
C	無電柱化道路に面した建物において複数箇所から発生した漏電火災	大阪市消防局/東出達彦
C	ドラム缶にノルマルヘプタンを移し爆発した火災事例について	大阪市消防局/奥田剛
C	コンプレッサ内でグラインダの火花が無炎燃焼を来した火災事例	東近江行政組合消防本部/黄瀬諒
C	11万人に影響を及ぼした電車の火災事例	枚方寝屋川消防組合消防本部/五十嵐龍次
C	太陽光パネルのリサイクル熱処理装置から出火した事例について	北九州市消防局/高山京介
C	少量危険物貯蔵取扱所から出火した自然発火における発火源及び着火物の調査	さいたま市消防局/高垣克樹

D一般の部における消防防災機器等の開発・改良

D	国宝姫路城「石垣用立てかけ梯子」の開発	姫路市
D	立体地形模型の作成で学ぶ災害リスクの理解促進に向けた消防防災用教材の開発	帝京大学/坪井 塑太郎
D	可搬式延焼防止装置	児玉 隆晃
D	ドローンを用いた夜間搜索システム	一般社団法人Japan Innovation Challenge
D	紫外線LED×UVカメラによる次世代型搜索救助支援ソリューション	株式会社キーサイエンス
D	区画制圧特化型伸縮ノズルの開発	ヨネ株式会社

E一般の部における消防防災科学論文

E	消防ポンプ自動車のバイパスバルブに替わる使用方法と応用事例	天方康雄
E	消防用150mmホース等を延長した時にできる屈曲部分を軽減する方法	天方康雄
E	大規模災害発災直後の災害対応活動における消防隊員のエネルギー摂取目安とその摂取法の提案	筑波大学/麻見直美
E	地域マルシェにおける火災予防策の実態と今後の課題	医療法人糖心会べっぷ内科クリニック/天花寺祐紀

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	スプリンクラーヘッドを用いた散水設備による熱中症対策について
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(新潟市消防局江南消防署) 佐藤 祐輔
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 熱中症のリスクを軽減させるために、消防活動中の隊員の身体を冷却させることができる、スプリンクラーヘッドを用いた散水設備を考案した。消火栓又は消防自動車からの送水により、フレキシブル配管に接続されたスプリンクラーヘッドから散水させ、有効な散水半径と放水性能を確保し、災害現場で早期に簡易的なクーリングスポットの設置が実現できる。また、フレキシブル配管を使用することにより、散水角度や散水方向を調整することができ、スプリンクラーヘッドを変更することにより散水半径や放水性能を変更できることから、災害現場に応じた対応が可能となる。 本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等	
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒	

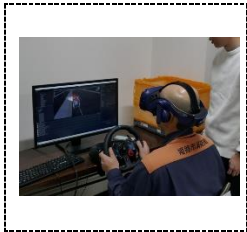
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	飲食店からの火災を減少させるための一方策 ～離隔距離の重要性が分かる「壁体施工模型」の活用～
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(京都市消防局) 北川 龍彦
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 飲食店関係者に壁体内で発生する低温出火を分かりやすく指導する壁体施工模型を作成した。かばんに入るサイズで持ち運べ、店舗厨房に任意の距離で設置できるほか、同模型の断面等から壁体の構造や仕上げを視覚的に理解できる。また、L字型にし、2種類の壁体の温度変化をデジタル温度計で同時に比較できる。模型の裏側を手で触れて温度を肌で感じることができ、記憶に残る指導となり、低温出火だけでなく、飲食店における全般的な火災予防への意識変化、行動変容等の相乗効果が生まれ、火災減少につながる効果がある。 職員研修にも使用することで理解が深まり、効果的な指導が可能となる。 本文中の連番: 写真 3 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等	
火災予防、職員指導、施工業者指導等	
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	交通事故防止教育を目的とした緊急走行V R の共同開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(姫路市消防局) 山口 晋吾		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 救急車や消防車が行う緊急走行には、赤信号や反対車線への進入、車両間のすり抜け等の危険を伴うものが多く、通行人や一般車両も予期せぬ動きをすることがあり、緊急走行時には多少なりともリスクを伴いながら出動している。今回の発案に至った経緯として、予行演習のできない緊急自動車の走行時に係る交通事故防止対策を抜本的に改革するため、V R を活用した動画による危険予知や事故等を疑似体験するシステムの構築を提案するものであり、緊急走行時に係るリスクを「見える化」し、若手からベテランまでリスク予見と回避のため事前知識を養うことにより、事故 0 を目指す全国に先駆けた取組である。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
緊急走行の機関技術、機関員及び乗組員の安全教育、リスク予見と回避のK Y T			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			
本件より先行開発ではないが、令和 6 年度発表の東京消防庁 INNOVATION PROJECT 2024 には、緊急走行操縦シミュレーションの取り組みが紹介されており、目的や趣旨については本件と同様である。			

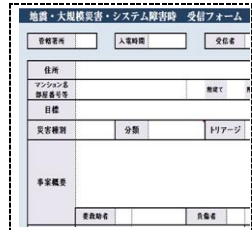
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	特殊災害用乾的除染袋「HOTATE」の開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(姫路市消防局) 山口 晋吾		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 特殊災害出動時、要救助者が有毒物質等で汚染された場合における、乾的除染時の脱衣を収納する耐薬品・耐透過性の高い収納袋を、防護服メーカーと共同開発した。袋の容量は約65リットルで、内容物の確認とプライバシー保護の観点から半透明で、袋口には密閉性と操作性を高めるためのスライダーを装備し、内容物や持ち主等を明確にするための複写式管理タグを貼り付ける仕様とした。これにより密閉度の均一化と所有者等の情報管理が容易となり、安価で耐薬品性の高い袋の開発による予算的許容と安全性の向上が見込まれ、隊員及び各関係機関の二次災害防止効果が期待できる。		本文中の連番： 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
特殊災害、石油コンビナート災害、集団災害 等			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	指令台機能不全時の代替システム		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(堺市消防局) 島尾 賢		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 大規模災害等により、常時使用している指令システムが機能不全に陥った場合に備え、指令台の代替システムを開発したもの。当システムは、Excelで作成された簡易な119番聴取フォームに通報聴取入力すれば、別シートに受信内容や対応状況が反映され、他のPCでも情報が共有でき、入力管理も可能となっている。指令機能不全と多数通報が同時に起こる最悪の事態に、指令センターで受報や災害情報をデータ管理できる。カスタマイズ可能な設計のため、全国の消防本部においてコスト不要で導入し運用が可能となる。		本文中の連番: ● 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
通信指令			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	ケーブル巻きによるロープ収納		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(江別市消防本部) 草沢 友喜		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) ロープは、火災活動や救助活動において多数の使用用途があり、使用頻度の高い資器材です。ロープの保管時は、主に「一ひろ巻き」により収納、保管されており、使用時には解く必要があります。解く際には、ロープにキンクができやすく、絡みやすいため、ロープを使用できる状態に整理するには多くの時間と労力が掛かります。そのため、「一ひろ巻き」に代わって「ケーブル巻き」によるロープ収納を考案いたしました。「一ひろ巻き」と「ケーブル巻き」の違いは巻き方のみで、他の作成方法や使用方法は「一ひろ巻き」と同じで、費用もかけず、簡単に変更することが可能です。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	改良		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
災害救助			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrfd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐			
類似品は、電気コードなどの整理に用いられており、消防用ロープでの検証はされていません。			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	山林・密集地住宅火災対応資機材		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(和泉市消防本部) 田 中 数 也		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 山林火災(地表火・地中火)において課題は鎮火まで長期間に及び延焼拡大し、消火作業による疲労が挙げられる。この資機材は 18 通り以上の可変ができ、その課題を軽減でき、また送水口が 1 対 3 口あり最大毎分 3 0 0 0 ℓ 送水でき、水幕ホースを山肌に展開する事により、夜間においても無人で防火帯を築き延焼を防ぐ事も可能になる。併せてジェットシューターの水補給も行う事ができる。また、木造家屋の密集地帯においても水幕放水や通常の放水を組み合わせ延焼阻止を同時に行え、少ない人員での活動が可能になり、新たな火災戦術の一步となることと確信いたします。また、海外の仕様に合わせる事で海外においての火災防御活動の一環を担えるものと思われます。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例 : 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	廃棄ホースを有効活用した防災担架（改良版）		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(志摩市消防本部) 阪口 雅浩		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 本開発資器材は、令和 6 年度に応募した作品に改良を加えたものである。 本開発は、使用できなくなったものを有効活用し、地域防災力の向上に役立てることをコンセプトに、災害や訓練での破損及び経年劣化で廃棄される消防用ホースを用いて、費用がかからず尚且つ誰にでも簡単に作成できる防災資器材にアップサイクルすることで、地域防災力の向上に貢献できる。 廃棄物を削減するとともに、本資器材を通じて地域との繋がりや、自助・共助意識の広がりなど、今後、防災普及啓発のためのあらゆる場面で効果が期待できる開発資器材である。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	改良		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
災害救助、防災訓練、避難誘導等			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	廃棄防火服を活用した隊員保護衣の考案について		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(埼玉県南西部消防局) 新座消防署消防活動課第1大隊		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ3cm、ヨコ3cm)で貼り付けること。			
(字数制限280字に設定してあります) 「隊員の安全確保」「着脱が容易」「様々な体型に対応可能」「予算をかけずに作成」の4点をポイントに、廃棄防火服を活用した隊員保護衣を考案した。 これは、平成29年に消防隊員用個人装備に係るガイドラインの改定を受け、当消防局では防火服の仕様が変更になり、旧仕様の防火服が大量に不用となったためリメイクによる新たな活用方法を検討した。 有効的に活用できる場面として「エンジンカッター使用時」「救急隊の交通救助現場活動時」「水利整備等におけるせん定作業時」が想定され、各場面における使用について検証を行い、実用化につなげたものである。		本文中の連番: 写真20 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
災害救助、救急救命、環境整備			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	潜水活動におけるダイバー安全確保システムの開発について ～クイックリリース対応ダイバーロスト防止器具の開発～		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(岡山市消防局) 渡邊 敏規		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 潜水活動時における最も重大なリスクはダイバーのロスト(行方不明)である。このリスクを解消するにはダイバー同士が常に繋がっている状態を保つ必要があるが、水中で繋がることは必ずしも安全であるとは言えない。水中では常に離脱できることも同時に求められる。これらの相反する条件を満たすことができた時に初めて水中での安全確保が成立する。この条件を成立させることが難しいのが直接検索網に繋がっていない索間ダイバーである。今回、これらの条件を満たし、さらに作成、導入が直ぐにでき、ダイバーの確実な安全確保が可能な器具(クイックリリース対応ダイバーロスト防止器具)を開発した。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
潜水救助業務			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	簡易自火報訓練装置の開発 ～手軽さと実効性を両立した自火報訓練装置の提案～
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(乙訓消防組合消防本部) 予防課
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。 (字数制限 280 字に設定してあります) 火災時の初期対応力向上を目的に、事業所従業員が自動火災報知設備を実際に操作しながら訓練できる「簡易自火報訓練装置」を開発した。機器は解体建物や業者から譲渡を受け、配線はカプラーで脱着可能とし、コンパクトで持ち運びやすい構造とした。これにより、現地での実践的な訓練が可能となり、従業員の理解促進と対応力の強化に寄与した。消防職員にとっても共通線、送り配線、終端抵抗の仕組み等が学べ、指導力の向上にも繋がった。製作は低コストで多くの人員や時間を要さないため、他消防本部でも容易に導入できる点も特長である。今後はさらなる活用拡大を目指す。 本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等	
火災予防	
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☒事例有 ☐事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☐ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☐ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ ・全国消防長会 2024. 2. 20 週間情報 自動火災報知設備のデモ機を製作 泉州南消防組合泉州南広域消防本部 ・笠間市消防本部公式 YouTube チャンネル ・相模原市公式 YouTube チャンネル 上記作品との相違点は以下のとおり 1 配線カプラー式の採用による利便性 本作品は配線カプラー式を採用しており、持ち運びが容易で現地での設置も工具不要で迅速に行うことが可能。 2 設置場所を選ばない柔軟性 受信機と発信機を離して設置できる等、設置場所を選ばず柔軟に対応できるため、多様な現場状況にも即応できる。	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	火災調査業務における 3D データ及び図面作成UIの活用		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(藤沢市消防局) 大西 正規		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 本実証研究では、消防活動における火災調査業務の効率化を図るとともに報告書作成の質向上を目的とし、360° 画像と点群データを活用した調査手法を検証した。研究結果から、従来の撮影手法と比較して時間短縮の効果が確認されるとともに、AI で処理された 3D 立体生成画像により、事後に現場の状況を確認することや距離を測定できるということの利点が見いだせた。また、3D 立体生成画像そのものを火災調査書類の資料として活用することの有用性についても見いだすことができた。		本文中の連番: 写真 2 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例 : 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
火災調査。			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	緊急離脱機能付きペアラインの開発について		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(大阪市消防局住之江消防署) 宮野 博幸		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 大型マンションや無窓階を含むビル、工場での火災時、煙による視界悪化や広範囲での活動で単独行動が誘発され消防職員の殉職につながる懸念があります。そこで、煙中や大規模空間での活動補助器具のシステムを開発しました。この器具は過度な強度を求めず比較的安価に製作され、緊急時には簡単に離脱できる設計です。離脱時に瞬時にアラームが鳴る機能を持ち、隊員の安全対策を強化します。このシステムにより、不測の事態に陥った隊員の迅速な把握と対処が可能となり、生命を守る手助けとなります。		本文中の連番: 写真1 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動、災害救助			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	廃棄ホースのカップリングを活用した漏水防止器の開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(大阪市消防局 住之江消防署) 宮野 博幸		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 消防防災活動の根幹である消火栓の維持管理は、国民の安全を支える重要な要素の一つです。水道管の老朽化に伴い消火栓も老朽化が進み、漏水修繕の費用が増大しています。各自治体は、限られた予算で計画的なインフラ再整備が求められ、応急的に漏水を防止する器具の購入や消火栓単体の修繕費も予算を圧迫します。本器具は消火栓の延命を可能にし、インフラ再整備計画に影響を与えません。消防は廃棄物品の有効活用、水道担当部署は余分な出費を抑え、計画進行上遅延のないインフラ再整備と相互が協力し負担を軽減することは、地方自治の最小の経費で最大の効果を体現するのではないのでしょうか。		本文中の連番: 3 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消防防災活動に付帯するもの及び公共サービスに付帯するもの。			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	違反対象物管理アプリ(VOMA)		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(大阪市消防局東淀川消防署) 邑智 崇洋		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 本アプリは、消防法令違反対象物の指導をより効率的に管理し、早期に違反を是正するため、ノーコード開発プラットフォーム「kintone」を活用して作成したアプリです。 職員の実施する是正指導をアプリで管理し、職員間の情報共有を円滑化させ、違反内容ごとの一覧表示や是正進捗をステージごとに表示させるなど、違反対象物の比較を容易にすることで進捗管理の見える化を図りました。また、指導内容や次回の指導タイミングをカレンダーで組織的に管理することができ、継続的な是正指導により、時期を失することなく違反処理へ進むことで早期に違反を是正することに繋がると期待しています。		本文中の連番: 違反対象物管理アプリ (VOMA) Violated Object Management App of the Fire Service Act	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
火災予防			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	危険物算定アプリの開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(大阪市消防局予防部予防課査察) 大野 真嗣		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 「危険物算定アプリ」とは、立入検査現場において危険物の情報を登録することで、危険物の指定数量の倍数及び危険物の種類別の数量を自動で計算し、立入検査現場、消防署及び消防局（本部）に危険物の算定状況を共有するアプリである。 本アプリは、無許可貯蔵違反（消防法第10条第1項違反）の疑いがある立入検査や少量危険物等の貯蔵又は取扱いの届出違反（大阪市火災予防条例第60条）の疑いがある立入検査等、第4類の危険物を算定する必要がある立入検査全般で活用できる。 また、計算の自動化と算定結果の見える化を実現し、算定時間の短縮と算定結果の正確性が向上される効果がある。		本文中の連番： 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
火災予防			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	SUZUKA 電動式消火シューター		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(鈴鹿市消防団) 宮崎 美憲		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 従来の両手で使用する手動式消火シューターの作業効率を改善し、急斜面などの過酷な現場で、より安全かつ効率的に活動できるように手動式を電動式へと改良し、片手でも操作可能な電動式消火シューターを考案しました。 改良にあたり、「軽量化を図り身体的負担を軽減する。作業効率を向上させる。既存の手動式消火シューターに大幅な加工は施さず、電動部分が故障した場合には、速やかに手動式へ切り替えて使用できる。」ことを重視しました。 さらに、肩バンドを取り付けることで、肩に掛けながら操作ができるため、空いた片手と両足で身体を保持しながら消火活動を行え、安全性と実用性を両立させた。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	改良		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☒ 事例有 ☐ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			
令和 5 年度に他県消防本部職員が、先行事例として発表している。 先行事例の消防職員とも連絡を取り、互いの改良品についての差異を確認している。 本消防団副団長の改良品は、放水部に肩バンドを設け、搬送時や放水時に肩へ掛けながらの放水も可能となり、放水員の負担を軽減している。			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	AR 消火栓アプリの開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(白山野々市広域消防本部) 松林 大司		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 火災発生時、消防隊は消火栓や防火水槽等を活用し消火作業にあたる事が多く、各市町村は消防水利を設置している。この消防水利は消防隊が容易に発見できるように標識を設置する義務があり、消防職員や団員は消防水利を定期的に点検し、有事に対して場所や機能性を確認している。しかし、すべての消防水利を暗記することは困難であり、さらに、夜間帯の視認性や、冬季であれば積雪で消火栓が隠れてしまう問題がある。その問題を解決する手法として、携帯電話の画面で消火栓を浮き上がらせるAR機能に着目し、消火栓が見える化にすることで容易に発見するアプリを開発した。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	屋内進入時における空間温度感知警報器の考案について		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東近江行政組合消防本部) 満田 圭亮		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ3cm、ヨコ3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 近年、住宅建築の変化に伴い火災の性状も変わりつつあること、また、消防職員の若年化に加え火災件数減少による現場経験不足などが挙げられ、火災現場における安全管理の向上を図ることは急務です。令和4年に「消防隊員用個人防火装備に係るガイドライン」が改定され、隊員の受傷事故を防ぐため、個人防火装備の充実及び性能が格段に向上したことで「熱さ」を感じにくくなっています。これにより、意図せず高温環境下で活動を継続してしまうリスク及び急激な燃焼拡大に巻き込まれるリスクがあります。そこで、定温式スポット型熱感知器の構造を活用した「空間温度感知警報器」の考案に至りました。		本文中の連番: 写真 5 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動、安全管理			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrfid.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ MSA製のモーションスカウト(個人携帯警報器)に一定時間高温環境に暴露すると警報が作動する「ヒートセンサー」という機能が搭載されています。作動基準は、90℃で90分、120℃で25分、150℃で17分、180℃で12分、250℃で5分となっており、非常に高温となった空間で長時間滞在した場合に警報が作動するものです。 本機器を取り扱っている業者に問い合わせたところ、「ヒートセンサー」は、機器本体を守るための警報機能で、屋内進入隊員の安全確保を目的とした機能ではないとのこと。			

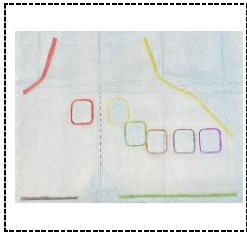
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	バインダー型薬剤管理ツール		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東近江行政組合消防本部) 入江 優太		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ3cm、ヨコ3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 現在、全国の救急件数は増加の一途を辿っています。その中でCPA事案においても増加しており、狭隘な場所で静脈路確保や薬剤投与などの特定行為を実施する際、薬剤や留置針の管理が課題となっています。過去にも全国的に救急現場での薬剤紛失事故が発生しています。今回考案した機器は、静脈路確保及び薬剤投与を実施する際に必要な資器材を集約させ、薬剤の「見える化」により管理徹底を行い、紛失防止を目的としたものです。さらに、現場活動において隊員の負担軽減、清潔操作の向上にも大きく寄与したものとされています。		本文中の連番: 19 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
救急救命			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	12 誘導心電図の電極貼付位置が一目で分かるシート		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東近江行政組合消防本部) 森田 修次		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 日本循環器学会の提言や総務省消防庁の救急業務のあり方に関する検討会の報告によると、救急隊が12誘導心電図を測定することは、傷病者の状態を的確に把握し、適切な病院選定をすることに繋がることから、冠動脈閉塞部位の再灌流までの時間短縮が期待されるとあります。このことから、救急隊が12誘導心電図を測定して判読し病態を予測することが必要です。 12誘導心電図を測定する上での課題は、電極を早く正確に貼付することです。そこで、救急隊員全員が12誘導心電図の電極を早く正確に貼付し、正確な心電図を測定することを目的とし、本器具の考案に至りました。		本文中の連番:4 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
救急救命			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

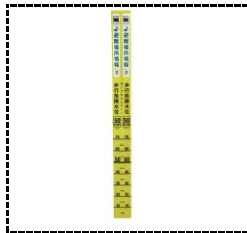
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	斜頸に対応するネックカラーの考案について		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東近江行政組合消防本部) 森田 真一		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ3cm、ヨコ3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) ネックカラーは、頸椎損傷及び頸髄損傷が疑われる事案において頸部に装着する資器材で、ネックカラーによる頸部固定は救急隊のスタンダードな処置です。ネックカラーを装着する際、ニュートラルポジションで装着することが基本となります。しかし、可動制限や痛みがある場合、ニュートラルポジションを取ることができず装着できません。このような場合、他の方法で固定するため時間が必要となることやマンパワーが必要となります。このようなことからニュートラルポジションを取れない斜頸に対応できるネックカラーの考案に至りました。		本文中の連番: 写真 12 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	改良		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
救急救命			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrfd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	消火栓ポールに貼付する「浸水深表示テープ」の開発と豪雨時の視認性の検証		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(衣浦東部広域連合消防局) 小池 裕介		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 近年、日本では河川氾濫や内水氾濫の被害が深刻化しており、集中豪雨やそれに伴う冠水状況下での避難における不安の解消が課題である。これに対応するため、避難ルート上の浸水状況や危険箇所を知らせる標識として「浸水深表示テープ」を開発した。人工降雨下での測光実験では、明所・逆光、暗所で最大10 mの距離から危険水位が明確に視認できることが確認された。さらに、実際に展示し、アンケート調査を実施した結果、約8割が水害時の行動変化に良い影響を与えると評価された。これらの結果から、本開発品が住民の迅速かつ安全な避難行動を促進する重要な役割を果たしていく可能性が示された。		本文中の連番: 写真1 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
防災、避難誘導			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP(https://nrfd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP(https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

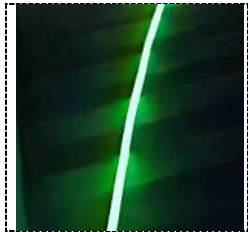
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	セーフティースピンドルガイド		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(浜松市消防局)		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 消火活動時、スピンドルで消火栓を操作する際、消火栓の開閉方向の失念や立ち位置によって方向感覚を見失い、開閉方向を間違えることが原因で、まれに事故が発生しています。この問題に対し、スピンドルの閉める方向をデジタル表示とLEDの点灯で明確化しました。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	蓄光治具「光イチロー」を活用した災害現場における安全管理の向上		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(浜松市消防局) 村松 弘一郎		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 当局が導入している信号機付き投光器の蓄光ケーブルを有効活用するため、迅速かつ効果的に蓄光するための治具を開発しました。本治具を活用することで、当該ケーブルの燐光により暗所での活動時における視認性が格段に上がり退路が明確となるだけでなく、階段等の高低差を明確に把握することができ、安全管理の向上に絶大な効果をもたらすことが可能となりました。 さらに、暗所において避難者を誘導する際に活用することで、蓄光するケーブルの光が心理的な不安解消にも繋がり、安全確実迅速な避難誘導にも寄与します。		本文中の連番: 5 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動、災害救助、避難誘導			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

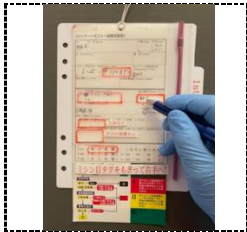
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	仮想空間（メタバース）で防火防災を学ぶ！ 「fire-X kuRe ～未来を守るバーチャル防火防災～」の制作		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	呉市消防局 予防課 指導係 小川 武志		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 防火防災の重要性について、リアリティや臨場感をデジタル体験する形で効果的に伝え、学習効果の向上や意識の高揚に繋げること、また本市防災センターの体験型施設を紹介し利用促進を図ることを目的に、デジタル技術の仮想空間（メタバース）を活用した広報コンテンツを制作しました。 このコンテンツは、幅広い年代層に向け、時間や場所に制約されず、かつ手軽に楽しめる防火防災学習を提供するため、スマホやパソコン等で、特定のアプリをインストールすることなくHPからアクセスし、Webブラウザで開く形としています。 本コンテンツは、消防職員が発案・独自で制作しました。		本文中の連番: 図4 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
火災予防、防火防災学習			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	記入箇所と手順を可視化する「トリアージタグテンプレート」の考案		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(倉敷市消防局) 石井 健		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 多数傷病者事案では、正確かつ迅速なトリアージが必要です。しかし、現場ではトリアージタグの記入漏れや手順ミスが発生しやすいという現状の課題があります。 そこで、タグを差し込むだけで、誰でも簡単にタグの記入箇所と手順を把握することができる「トリアージタグテンプレート」を考案しました。 検証では、タグテンプレート使用グループで記入漏れの大幅な減少が確認され、隊員からも高い評価を得ました。 このツールは、現場での混乱を抑制し、正確で迅速なトリアージ活動をサポートし、より多くの傷病者の救命に貢献することが期待されます。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
災害現場における傷病者情報の管理			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☐ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	福祉施設等に設置する居室内避難状況可視化システムの開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(松山市消防局) 宮田 直史		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 高齢者福祉施設、病院、ホテルなどでは、休日夜間の人手不足等から、火災時の避難誘導がより難しくなっており、どの事業所でも大きな課題である。 今回の開発機器は、各居室の扉付近に設置するもので、居室内確認後に、部屋番号等を記載したタグを引き抜いてスイッチが押下されると、足元にあるランプが赤から緑に切り替わるため、居室内の避難状況が一目で共有できる。さらに、タグを指揮本部に集結すると避難状況管理が容易になるほか、足元のランプは上部から溜まる煙の性質を考慮しており、赤ランプの居室への優先的検索活動が可能になるなど、迅速かつ効率的な人命救助にも貢献する。		本文中の連番: 写真 1 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
災害救助、避難誘導、情報管理			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	アウトリガー用敷板の改良		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(永平寺町消防本部) 梨木 悠		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 当消防本部では救助工作車のクレーン使用時にアウトリガーの設定をする際、接地面の状況に関わらず敷板を敷いての活動をしている。設定をする際、仮設定を行い、アウトリガーが敷板直近まで降りた後に中心部分にくるように再設定している。この作業をさらに迅速にできるよう、アウトリガーの下部に改良した敷板を装着した。改良した敷板は、容易に設定でき廃棄ホースとゴムバンドを使用しているため、費用がかからない。また、十分な強度と耐久性があるため、これを活用することで現場での活動時間が大幅に確保でき、人員を割くことが防げる。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	改良		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
災害救助			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	エンジンカッターディスクガードの改良について		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(福岡市消防局) 華江 流星		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 既存のエンジンカッターのディスクガードではディスクブレードの上部しか保護できておらず、ディスクブレードの下部は常にむき出しとなっている。そのため、アイドリング状態での持ち運びを求められる場面での安全性が担保されていない。 そこで、ディスクブレードを全体的に保護できるように既存のディスクガードに追加してディスクブレードの下部を覆うディスクガードを追加し、アイドリング状態で万が一ディスクブレードが回転した際にも安全性を担保できるように改良することを提案する。		本文中の連番: ① 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	改良		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
災害救助			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	ホース落下防止用バンドの開発について		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(福岡市消防局) 澤見 悠太郎		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 現在、本市消防局では、火災活動時に上階へホースを延長する際、通水によりホースが落下することを防止するために、オープンスリングやカラビナを使い、手すりなどに結着することにより対策を行っている。 今回開発した内容は、バックルを使用することで付け外しが可能となり、バンドの径を手すりなどの大きさに合わせて調整することができ、分岐にも使用することができる。たとえば、ホースを締めすぎて放水圧力を低下させても容易にバンドを緩めることができるものである。また、バンドを滑りにくい素材にすることでホースのずれを防止することができる。		本文中の連番: ① 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	廃棄ホースを活用したマルチホースバンド		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(湖南広域消防局) 谷口 祥		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 我々消防隊が行う消火活動において、迅速かつ確実なホース延長が必要不可欠です。しかし、現場経験の不足による焦りや住民の視線にさらされることによる心理的ストレス、迅速な消火活動を求められる時間的ストレスにより、迅速かつ確実なホース延長ができなくなってしまう可能性があります。しかし、本資器材を使用することで、現場経験の浅い若手隊員であっても迅速かつ確実なホース延長が可能となり、延焼拡大阻止にも繋がります。また、従来のホースバンドとしての機能に加え、屋内進入からの退出経路が蓄光テープにより明示されるため、隊員の安全な消火活動も実現可能となります。		本文中の連番: 写真 No.3 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	マルチローラーの開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(湖南広域消防局) 齋藤 志		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 消火を目的とした屋内進入を行う際、曲がり角ではホースが折れ曲がり、屋内進入の妨げになることから、充水ホースを携行して屋内進入する隊員2名の他にエッジマンとしてホースをさばく役割の隊員を充てるが必要になります。 しかし、初動対応では、消防力が整い切らず、人的資源が劣勢である状態での早期屋内進入が必要であることから、少数精鋭の限られた人員で早期屋内進入ができる体制を整えることが大きな課題となっています。 そこで、初動対応における早期屋内進入時に、エッジマンを充てることなく、2名の隊員で実施できる方法として、このマルチローラーを開発したものです。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	トリアージランプ		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東京消防庁 牛込消防署) 市原 祐輔		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 現場救護所のスペースを確保出来ず、トリアージマットを展張出来ない場合に、トリアージの状況が把握することが困難となる。暗所で投光器を光源とした場合、発動発電機の排気には一酸化炭素などの有毒な成分が含まれるため、吸入することでの体調不良の発生や、疲労で聴覚が過敏となっている方は、長時間エンジン音を聞くことで苦痛を感じる事が考えられる。トリアージの識別色を光で表示するとともに、充電式のLEDライトの光を増幅させて現場救護所を照らすことで、活動隊や医療関係者が、早期にトリアージの状況を把握するとともに、傷病者の体調管理に配慮した現場救護所の設定が出来る。		本文中の連番:写真1 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
救急救命、災害救助			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

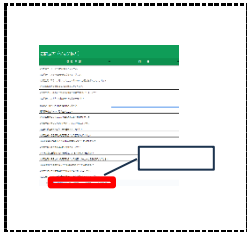
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	喉頭展開用携帯式枕		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東京消防庁 牛込消防署) 市原 祐輔		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 異物除去や気管挿管チューブを挿入する際、口腔内及び声門を直視するために喉頭展開を行う。胸骨圧迫の振動や、頭部の重みで枕自体が動くことで頭部が動いてしまいスニッフィングポジションが不十分となる。 口腔内の確認が困難となることで、喉頭鏡のブレードで口腔内を傷つけることや声門の直視が困難となることで食道挿管などの合併症が考えられる。 適正な位置でのスニッフィングポジションを保持するため、頭部を固定することで安全に喉頭展開を行うことの出来る資器材である。 経験の少ない隊員でも口腔内の損傷や食道挿管などの合併症のリスクを軽減することで安心して積極的に手技を行うことが出来る。		本文中の連番: 写真 8 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
救急救命			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☒ 事例有 ☐ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	自動音声テキストによる業務効率化について	
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(甲賀広域行政組合消防本部) 片岡 佳樹	
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。		
(字数制限 280 字に設定してあります) 地方公務員の職員数は1994年の約328万人から、現在約280万人へと減少し、約14.6%の減となっている。職員数の減少により、一人当たりの業務負担が増加し、職場環境の悪化や離職につながるおそれがある。消防職は、多様な災害対応に加え、膨大な書類作成に追われるなど業務の負担が大きい。本論文では、自動音声テキスト技術の活用を提案する。この技術により、迅速で正確な書類作成が可能となり、職員の負担軽減と業務効率化を図ることができる。更には、行政サービスの向上と職場環境の改善が期待できる。		本文中の連番: 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒		

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	ホイスト活動における回転現象の原因解明及び対策
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(兵庫県消防防災航空隊・神戸市消防局警防部航空機動隊) 岩倉徹
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) ホイスト活動中に、ダウンウォッシュが起因して発生する回転現象は、時に高速化し、ヒヤリハット事案として取り扱われる。 現在、全国の航空消防隊において、回転現象に対して完璧に制御する技術は無く、95.1%の隊員が回転現象について不安を抱えており、30%の隊員がヒヤリハットを経験している。 要救助者の安全救出、そして隊員の安全活動のため、本研究では、専門家の協力を得て、回転現象を学術的に解明し、回転原因や対処手技を確立している。 本課題は、世界の航空隊においても同様であり、本研究内容が、広く周知されることで、航空消防隊のみでなく、全ての航空隊の安全に寄与することができる。	本文中の連番: 図1 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

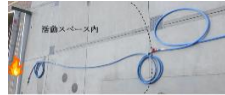
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	水難救助現場におけるEMSターポリン担架の活用について
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(京都市消防局) 祝井 淳希
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 水難事故が発生した場合、救助ボートを活用して救助活動を実施するケースが多い。その際、救助ボートの出艇に一定時間を要することが課題となっている。特に時間を要しているのは、不安定な足場環境下で船外機を搬送することであるため、この時間を短縮することが迅速な救助活動につながると思われる。 また、河川等から救助ボート内に救出した要救助者を、救助ボートが揺れる状況のなか、不安定な体勢で徒手により陸上まで搬送を実施しているため、何らかの対応が必要である。 そこで、EMSターポリン担架を活用した船外機の搬送方法及び救助ボート内に救出した要救助者の搬送方法を検証する。 本文中の連番: 	
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

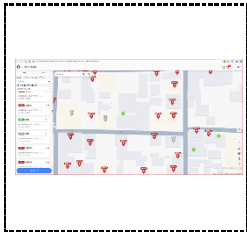
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	「セットバック」～ホースの延長方式について～
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(神戸市消防局) 水門 浩一
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 時に設定してあります) 現場では複数の隊が出動し、複数本のホースが延長されます。そのため、自隊が訓練通りのホース延長をしても、他隊のホースがその上に載りかかってくるという状況はよく発生しています。 そこで、複数のホースが延長されたとしても、また、どのような場所においても、訓練通りのホース延長が実施でき、しかも、整理された状況を実現するホース延長方式として「セットバック方式」を考案しました。 「セットバック方式」では、火点から 10m～15m の範囲を活動スペースと認識し、その後方に分岐器と 1 本目のホースを配置することで、活動スペース内には必要なホースしか配置されません。 訓練でも現場でも、ほぼ同じ形状のホース延長が可能な方法となっており、警防力の向上が期待出来るものと考えています。	本文中の連番: 写真 2 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☒ 事例有 ☐ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrfd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☒ 無 ☐	
ホース延長に関する先行事例は、二重巻きと島田折り、島田巻きと狭所巻き又は、狭所巻きの改良など、どの研究においても1本のホースをどのように折り畳み、延長・展開するの かというものでした。それらのホース巻きにより展開されたホースは省スペースで効率よく できますが、実際の現場では複数のホースが同じスペースに配置されるため、イメージ通り に延長されたホースの上に他隊のホースが載りかかるため、現場が乱雑になる状況はよくあ ります。 本研究では、複数隊のホースが同じスペースに延長されることを前提に、分岐器とホース の後方配置(セットバック)という方式を採用することで、乱雑さを解消します。 また、先行研究でされていたようなホース巻きを固定することなく、セットバック方式が できるものであれば何でもよいとしており、各隊でこれまで培った技術を大きく変更するこ となく実施できます。	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	大規模災害時における広範囲検索活動時の情報管理に関する研究
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(奈良県広域消防組合) 町田 吉隆
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 本研究では、大規模災害時における人命検索活動において、紙の地図と地図アプリを用いた情報管理を比較検証した。模擬的な災害を想定した検証の結果、紙地図は活動時間と情報精度で優位であった。地図アプリはリアルタイム性、集約時間、ログデータの自動記録で有効であった。現在は、災害現場でのデジタルツール活用に有用な周辺技術も整ってきており、今後、検索活動に特化したソフトウェア開発によって、情報管理の効率化と救命率向上に繋がると考えられる。	本文中の連番: 図1 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☒ 事例有 ☐ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☒ 無 ☐ ・藤田信輔「スマートフォンを用いた消防活動用地理情報システム~消防団内での水利情報と車両位置の共有を目指して~」 ・田中克佳・小川健太・金子正美・福田潤・目黒茂樹・梅津尚幸 「ハイブリッド通信によるロバストな双方向 情報伝達システムの開発」 ・西出和広ほか「災害時における効率的な救助計画の立案や救援ニーズの把握に有用な避難所支援システムの開発」 上記を含め、大規模災害時の情報管理に関する研究は、これまで数多く行われてきた。しかし、その多くは、通信インフラ、情報システムの構築、避難所運営、物資供給、現場指揮における活動隊の管理など、被災者支援や復旧・復興活動、緊急対応時の命令系統に焦点を当てたものが中心である。一方、人命検索活動における情報管理、特に広範囲にわたる検索情報の効率的な収集・集約・共有に特化した研究は、管見の限りでは見当たらない。	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	サイロ内における生き埋め事故の救出要領についての考察
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(大阪市消防局大正消防署) 新宮 雅人
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 近年、自然災害による土砂災害が多く発生し甚大な被害を出している。 同種の土砂災害であるにも関わらず、あまり着目されていないが、サイロ施設での生き埋め事故も年に数件起きている。 自然災害を想定した土砂災害の救出要領は全国的にも普及し始めているが、サイロ施設での生き埋め事案の救出要領については未だ確立がなされていないのが現状である。 そこで、本論文においてサイロ施設内における生き埋め事故の救出要領を考察し確立することで、全国で発生するサイロ施設内での生き埋め事故の救出要領の一翼を担えることを切に願う。 本文中の連番: 写真 14 	
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

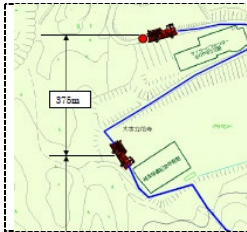
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	消防署内土足禁止の取り組みについて	
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(浜松市消防局) 岡村紀久美	
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。		
(字数制限 280 字に設定してあります) 我々消防士はその仕事の特性上、「災害現場」が日常にある。 床上には汚物や血液、時には有害物質が散乱する中、現場を歩き回る我々の靴底は、それらと直接接触する。そして土足での勤務が一般的とされる現状では、それらの汚染は帰署後の全ての行動につきまとう。事務所で仕事をし、食堂や仮眠室へ向かうその道中にも、靴底が起点となって汚染は広がっていくのである。 汚染された活動靴での立ち入りを防ぐ目的で、土足勤務の消防署において建物内土足禁止の取り組みを約1か月半試行した。 試行期間後のアンケート結果、副次的な効果について論述する。		本文中の連番: 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒		

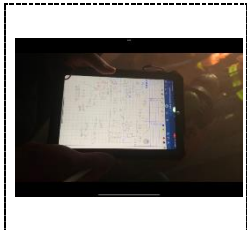
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	位置情報共有アプリを使用した山林火災防御について
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(福岡市消防局) 矢野 淳志
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 山林火災が発生した場合、山林ルートの基本にした計画があるものの、ルートが木々で塞がれて見失うなど、火点に到達することが困難な場合がある。指揮者は、活動隊員に火災が発生している危険な山林内へ進入指示を行うが、現状の確認が困難で、隊員の安全管理を確実にすることは現段階では難しい。 上記の課題を解決するため、本論文の「位置情報共有アプリを使用した山林火災防御について」を提案する。 指揮者が随時、進入ルート及び火点の位置の指示が可能となり、各小隊の位置の確認が行え、隊員の安全を確保しながら、効果的な指揮活動が展開できるといった内容になっている。	本文中の連番: 補足 1 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

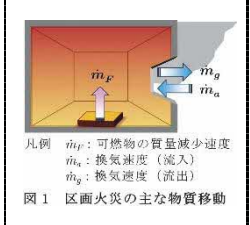
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	現場指揮所の DX 化～消防活動の効率化と負担軽減を目指して～	
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(警防部警防課) 安岡 恒暢	
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。		
(字数制限 280 字に設定してあります) 消防業務における情報の迅速な共有と効率的な指揮運営は、安全で効果的な災害対応の基盤である。現在、多くの現場では紙ベースの情報管理が主流であり、これにより情報の伝達が遅れる、無線の利用時間が長くなる、そして指揮隊員の負担が増えるといった課題がある。本研究は、現場指揮活動にデジタルツール(タブレット・デジタルノートアプリ・デジタルペン等)を導入し、指揮所をDX化することで、これらの課題を解決し、指揮所の運営を効率化し、現場活動の負担軽減を目指すものである。		本文中の連番: 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒		

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	可燃物の燃焼理論に基づく区画火災性状の簡易予測—区画内平均温度を用いた質量減少速度の算定
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東京消防庁) 後藤 大輔
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 区画火災性状の把握(予測)では、可燃物の質量減少速度と換気速度の把握が重要となる。このため、空間、可燃物条件に応じてこれらを得ることができれば、建築物個々の実態に応じた区画火災性状の把握が可能となり、建築物の火災安全設計(延焼拡大防止性能、避難安全性能、消防活動支援性能等の考慮)上有用になる。しかし、これらの把握は、現状、数値計算、実験のいずれにおいても困難である。そこで、本研究では、これらのうち、質量減少速度を対象に、計算・実験上、扱いが容易な区画内平均温度を用いた簡易算定法を提案し、実験値を踏まえてその妥当性を明らかにした。 本文中の連番: 図1  凡例 $\dot{m}_p$: 可燃物の質量減少速度 $\dot{m}_a$: 換気速度(流入) $\dot{m}_g$: 換気速度(流出) 図1 区画火災の主な物質移動	
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☒ 事例有 ☐ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☒ 無 ☐	
本研究は、区画火災性状の把握(予測)において重要となる可燃物の質量減少速度(可燃性ガスの発生量を決定するもの)について、実験及び計算上、容易に得ることができる区画内平均温度を用いた簡易算定法について検討した研究であり、主に以下の点で、質量減少速度の予測に関する先行研究と大きく相違する。 - 本研究は、関根^{本文参考文献 31)}による盛期火災に限定したものとは異なり、燃料支配から換気支配に至る一連の質量減少速度の経時変化を対象としている。 - 燃料支配から換気支配に至る一連の質量減少速度の経時変化を対象とした質量減少速度の算定法の提案として、後藤等による研究^{本文参考文献 1)-3), 11)}があるが、コンピューターによる数値計算を要するほか、多数の形態係数と伝熱の算出を必要とするなど、計算コストも高い。これに対し、本研究は、形態係数及び複数の伝熱計算を必要としない簡易な算定法を提案している。	

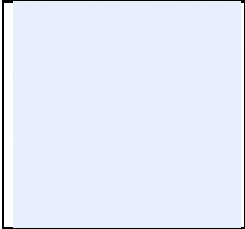
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	消防活動時の休憩における効果的な身体冷却に関する研究
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東京消防庁) 佐々木 航
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 消防隊員は熱中症の発症リスクが非常に高い職業である。火災現場では、長時間にわたり活動を実施する場合があります、消防隊員が熱中症を発症することなく活動を継続するためには、休憩時に体温をいかに低下させるかが重要となる。そこで、本調査研究は、消防活動における休憩時の効果的な身体冷却方法を明らかにすることを目的とした。 本研究の結果、消防活動時の休憩において、手掌前腕冷却及びアイススラリは身体冷却の方法として効果的であり、手掌前腕冷却、アイススラリ及び風冷を全て実施した場合、最も冷却効果が高いことが分かった。	本文中の連番: 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☒ 事例有 ☐ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☒ 無 ☒	
・災害現場における女性消防隊員に配慮した熱中症対策「休憩時クーリングによるコア・コントロール」(大阪市消防局、令和3年消防防災科学技術賞優秀賞) 相違点：先行事例は全身水浴による身体冷却効果を検証、本研究は手掌前腕冷却、アイススラリ、風冷の身体冷却効果を研究 ・アイススラリー摂取による消防隊員の身体冷却に関する研究(東京理科大学) 相違点：先行事例は、消防活動時のプレクーリングも含めたアイススラリーによる身体冷却方法を検証、本研究は休憩時に着目した各種身体冷却効果を研究	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	震災時の火災調査効率化と DX の費用対効果		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東京消防庁) 平山 雅晴		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 震災時、区市町村と消防機関は協力し迅速に被害状況を調査し、罹災証明書を遅滞なく発行しなければならない。しかし、人員、損害判定基準、DX 状況を比較すると、消防の調査は区市町村より圧倒的に遅いと考えられ、現状では都民に実害を与える。そこで調査を効率化するため検討したところ、調査に時間を要する半焼以下棟数は 4√ (全焼棟数) で近似できることが判明した。これにより調査員の適切な配置が可能になる。同手法を用いて調査用システムの導入効果を試算したところ、約 5.3 万時間の省略が見込まれる。このほか、簡便な損害額の算定要領を策定した。		本文中の連番: 	
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒			

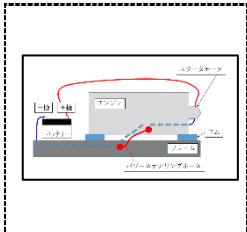
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	生理学的指標を用いた消防隊員の緊張度に関する研究
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東京消防庁安全推進部安全技術課) 舘岡 俊樹
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 消防隊員であっても火災に出場すると緊張したという経験は珍しくない。火災現場の火災により、消防隊員は過度の精神的な緊張を感じると予想されるが、火災現場における消防隊員の緊張を調査するためには、実際の火災を用いて火災現場を再現した状況をつくり、消防隊員の緊張を定量化する必要がある。 そこで本研究は、脳波等の緊張状態を評価する各種生理学的指標を用いて、火災現場を想定した火災等が消防隊員の精神的緊張に与える影響を定量化することを目的とした。 本研究の結果、生理学的に見ると、火災を見慣れている消防隊員でも、火炎を確認することによって精神的に緊張することが分かった。	本文中の連番: 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☐ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☐ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☐	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	パワーステアリングホースが発熱して出火に至った事例
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(福岡市消防局) 川越 怜史
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 積み荷の点検のため路上に停めたトラックの始動時にエンジンがかからず、エンジンルームを確認するとパワーステアリングホース付近から火炎を確認した車両火災である。 調査の結果、エンジンアース端子の離脱によりスタータ始動時の電流がパワーステアリングホースに流れたため、当該ホースが発熱し出火に至ったものと判明した。 エンジンアース端子の離脱という出火の原因箇所と、パワーステアリングホースの発熱箇所が離れており、車両の電気回路や構造に関する知識がなければ出火原因の解明が困難な事例であった。	本文中の連番: 図 4 
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)	
福岡市消防局 車両製造事業者 運送事業者	
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	クラウドファンディングで購入した製品からの出火について
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(大津市消防局) 朝田 秋平
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 本火災は、クラウドファンディング型ショッピングサイトで購入したサーキュレーター式ヒーターから出火した建物火災である。当該製品は、一般販売開始前の製品であり、調査開始時点において上記サイト内の1社のみが独占販売権を有していることが判明した。現場見分状況により製品内部からの出火が明らかであると判断したため、販売会社に対し既購入者に向けた速やかな注意喚起を依頼するとともに、迅速入念な鑑識見分、同製品の類似火災が発生した他消防本部との連携調査の結果、原因を特定することができ、販売会社による当該製品の自主回収及び一般販売の中止決定に繋げることができた事例である。 本文中の連番: 	
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)	
大津市消防局 金沢市消防局 独立行政法人 製品評価技術基盤機構	
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	火災熱によるリチウムイオン電池の焼き痕跡について
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東大阪市消防局) 中西 勇人
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 本事案は、東大阪市内にある倉庫において発生したリチウムイオン電池が起因する火災において、出火箇所周辺に散乱していた多量のセルの中に、1 本のみ外筒が明らかに内部から外部に向かって開裂しているものが認められた。X線透過装置で確認すると、他のセルは安全弁が離脱しているのみであったので、開裂した 1 本が出火に関係したと確証を得るため、実火災を再現し燃焼実験を行った結果、確証となり得る検証結果に至ったことから、近年増加しているリチウムイオン電池が起因する火災の原因調査の一助になるよう、実験結果を広く共有いたしたい。	本文中の連番: 
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)	
東大阪市消防局	
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	電力線から車体への地絡により発生した電車火災について	
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(神戸市消防局水上消防署) 藤本 泰生	
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。		
(字数制限 280 字に設定してあります) この火災は、令和 5 年 8 月に神戸市内の鉄道地下トンネル部分で発生した電車火災で、車両屋根上に設置されたクーラーユニットの一部が焼損した事案である。 クーラーユニットのカバー部分に複数のアーク痕が認められたことから、電車に電力を供給する電力線(き電線若しくはトロリ線)からカバー部分に向かってアークが発生して地絡したことにより火災が発生したと考えられ、アークの発生原因の分析を行った。		本文中の連番: 
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)		
神戸市消防局 兵庫県立工業技術センター(鑑定協力) 公益財団法人鉄道総合技術研究所		
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP(https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP(https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒		

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	ポータブルバッテリーの基板から出火した火災の原因調査について
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(徳島市消防局) 木村 誠
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 車両に積載していた、未使用状態であったポータブルバッテリーから出火した車両火災で、ポータブルバッテリーが残存していたため、内部基板からの出火であることが判明した火災である。 ポータブルバッテリーはリチウムイオン電池を内蔵することで、バッテリーセルからの出火事例が多くなると考えられるが、本稿を通じてバッテリーセルからの出火だけでなく、内部基板からの出火の可能性があることを周知し、今後の火災原因調査における原因究明の一助になれば幸いである。	本文中の連番: 16 
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)	
・徳島市消防局 ・総務省消防庁 消防大学校 消防研究センター(鑑識・鑑定技術支援) ・独立行政法人 製品評価技術基盤機構 四国支社 ・製造元	
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☒ 事例有 ☐ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	
本稿における出火事例はポータブルバッテリーの内部基板から出火したものであるが、令和 6 年度消防防災科学技術賞受賞「同型品の全数回収に至ったポータブルバッテリーからの出火事例調査について(千葉市消防局若葉消防署)」はバッテリーセルの製品不良によるものであり、令和 5 年度消防防災科学技術賞受賞「ポータブル電源から出火した火災について(川崎市消防局)」は充電中のポータブルバッテリーから出火したものである。	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	ラジコン草刈機から出火し製品の改善に至った事例について	
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(備北地区消防組合消防本部) 佃昌弘	
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。		
(字数制限 280 字に設定してあります) 本火災は、休耕田の法面を草刈中のラジコン草刈機から出火した事例である。 出火原因は、機体の冷却ファン周辺に刈り草が詰まることでエンジンが冷却されず、排気管でアフターファイヤ現象が発生し、噴き出した炎が機体上に堆積した刈り草に着火して、外装カバー等に燃え広がり火災に至ったものである。 調査結果により、使用者の整備不良に起因する火災であることが判明したものの、製品自体にも火災を招く構造であることが認められたため、製造業者に対し改善指導を行い、追跡調査を続けたことで製品の改善に至った事例		本文中の連番:
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)		
備北地区消防組合消防本部 庄原消防署		
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒		

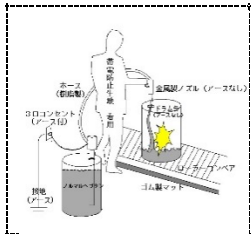
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	無電柱化道路に面した建物において複数箇所から発生した漏電火災		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(大阪市消防局 予防部 予防課 調査鑑識) 東出 達彦		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 本火災事例は、無電柱化道路に面した鉄筋コンクリート造陸屋根8階建複合用途建物の屋上において、低圧ケーブル用プルボックス及び電気配線類若干焼損並びに同建物の外壁に取付けられた高圧ケーブル及び同外壁が焼損した火災である。電気事業者との実況見分(合同鑑識)を複数回実施した結果、低圧ケーブル用プルボックス内の電気配線が絶縁不良となり漏電が発生、漏電電流が高圧ケーブル保護管へ流れたことにより経年劣化した保護管と防水用プリカチューブの結合部分において、火花放電が発生し出火したものと判定した。		本文中の連番: 	
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)			
関西電力送配電株式会社			
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	ドラム缶にノルマルヘプタンを移し爆発した火災事例について
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(大阪市消防局 東住吉消防署) 奥田 剛
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。 (字数制限 280 字に設定してあります) 本火災は、少量危険物貯蔵取扱場において、ノルマルヘプタンをローラーコンベアの上に置かれた空のドラム缶に、電動給油ポンプを使用して移し替える際に、液体が流動することによって、アースの取っていないドラム缶内で帯電が生じ、ノルマルヘプタンの揮発した可燃性ガスがドラム缶内で滞留し、静電気に着火して爆発した火災事例である。 本文中の連番: 	
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)	
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	コンプレッサ内でグラインダの火花が無炎燃焼を来した火災事例		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(東近江行政組合消防本部) 黄瀬 諒		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 本火災は、金属加工工場に設置されたレーザー加工機に付属するパッケージ型スクリュコンプレッサにおいて発生した火災事例であり、長期間同じ使用環境にある機器が偶発的に火災に至ったものである。 出火原因は、グラインダの火花がコンプレッサ内に流入し、オイルを含む鉄粉に着火したことで無炎燃焼が継続。さらにコンプレッサ内のウレタンに延焼拡大することで数時間後に有炎燃焼に移行したものである。 金属加工工場の職員を交えて、火災実験を繰り返したことで、火災原因の究明に至るとともに、類似火災防止の改善指導を効果的に実践できた事例である。		本文中の連番: 写真 2 	
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)			
東近江行政組合消防本部、総務省消防庁消防研究センター、機器製造業者、機器点検業者			
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	11 万人に影響を及ぼした電車の火災事例	
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(枚方寝屋川消防組合) 五十嵐 龍次	
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。		
(字数制限 280 字に設定してあります) 本件火災は、運行中の電車が駅で停車した際、車両の下部から白煙を上げて出火した事例である。 当該火災の出火原因は、車両の脱線防止、摩擦防止等のため、走行中に塗油器でレールへ吹き付けた油が、走行することで車両下部へ埃とともに付着し、長期にわたり放置したことにより油を含んだ埃が溜まり、停車の際に車輪と制輪子の間で発生する高温の鉄粉が飛散し、出火した事例である。 約11万人に影響を及ぼしていることから、類似火災の防止を目的に、鉄道会社のマニュアル改正を行うとともに、管内で運行している別会社へ情報提供を行った事例である。		本文中の連番:写真 3 
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)		
枚方寝屋川消防組合 大阪府寝屋川警察署 A 電気鉄道株式会社 総務省消防庁 消防研究センター		
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒		

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	太陽光パネルのリサイクル熱処理装置から出火した事例について		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(北九州市消防局) 高山 京介		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 本事例は、廃棄太陽光パネルを加熱処理によりリサイクルする、リサイクル熱処理装置から出火した建物火災である。 リサイクル熱処理装置を見分した結果、本装置の入口シール室に可燃性ガスの固形物が多く付着していた。これに、関係者の回答等を含め考察した結果、リサイクル熱処理装置の電源停止後、入口シール室内の温度が下がりきれず、シール室内に付着していた可燃性ガスの固形物が蓄熱して出火したものと推定した。		本文中の連番: 2 	
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)			
北九州市消防局(若松消防署警防課) 北九州市消防局 予防部予防課 火災調査係 株式会社 A(熱処理装置メーカー)			
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	少量危険物貯蔵取扱所から出火した自然発火における発火源及び着火物の調査	
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(さいたま市消防局) 高垣 克樹	
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。		
(字数制限 280 字に設定してあります) 本火災は、少量危険物貯蔵取扱所から出火した事後聞知により覚知した建物火災である。 現場見分、防犯カメラの映像見分及び実験見分、関係者の供述から、電気及び放火による出火は否定し、少量危険物貯蔵取扱所にある危険物第4類と第5類の混合による出火が検討され、現場見分の結果から想定し得る発火源及び着火物を検証した結果、出火原因の推定に至った事例である。 さらに、火災調査時、危険物の取扱いの違反を現認し、火災調査と並行し、危険物の調査を実施、改善につなげた事例である。		本文中の連番: 
4 調査を行った機関(協力した機関も含む)		
5 先行事例との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒		

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	国宝姫路城「石垣用立てかけ梯子」の開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	姫路市		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ3cm、ヨコ3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 国宝姫路城の建造物は複数の棟が連立した大規模な木造建築物である天守閣群を中心に横に長く繋がった西の丸と櫓、門が複雑に配置され、それらを土塀で結んでいる。西の丸の百間廊下は南北に 240mと長く、避難口は南端入口と北端出口、中央南寄りの「ヲの櫓」開口部であるが、北端出口までは160mもあることから中間の「ヨの渡り櫓」開口部を避難口とした場合、同開口部の外は高さ4mの石垣上で狭い石垣上を北端の石段まで41m避難することとなる。しかし、石垣上には柵がなく避難者が石垣下へ転落する危険性があることから、安全に地上へ避難するための石垣に特化した立てかけ梯子を官民連携で開発した。		本文中の連番: 18 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
避難誘導			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

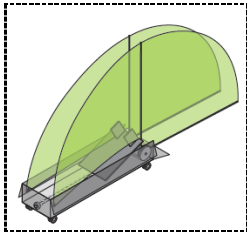
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	立体地形模型の作成で学ぶ災害リスクの理解促進に向けた消防防災用教材の開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(帝京大学) 坪井 聖太郎		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 防災教育では「地域の災害リスクを知る」ことが重要視され、従来よりハザードマップを活用して地図を「見る」ことで学ぶ方法が実践されてきた。本取り組みではこの基本理念を継承しつつも、複数枚の透明プラスチック容器蓋を利用し、これに等高線を描き、積層することで立体的に地図を「作る」工程を持つ点に特徴を持つ。この作業は工具不要で安全性が高く、低コストで実施可能なため、幅広い世代の参加が期待できる。また、教材の作成にはオープンデータとフリーGISソフトを用いることで、任意の地域で等高線地図を作成できる利点があり、国内外での展開に向けた高い汎用性を持つ。		本文中の連番: 写真 4 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
地域理解, 災害リスク認知, 予防, 消防防災教育			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☒ 事例有 ☐ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☒ 無 ☐			
地図を立体的に表現するための取り組みでは、従来からの段ボールやスチレンボードを等高線に沿って切り抜き積層させる方法のほか、近年では、3D プリンタを用いた方法が知られている。これらの方法では、「立体」「カタチ」として地図・地形をつくるのが可能であるが、前者においては曲線をカッターナイフ等で切り抜いていく技術が不可欠であり、低学年の児童・生徒においては、ケガや作業上の困難が推察されることや、後者においても、導入コストや高度な操作技術が要される。本開発においては、この点を考慮し、比較的安価で入手が可能な食品販売用のパック等で用いられる「透明プラスチック容器蓋」を用い、油性マジックのみで地図(等高線)から、立体的に地形を作成すると同時に消防防災教育における国内外での実践を通して改良と効果検証を行ってきた点において先行手法との相違をもつ。			

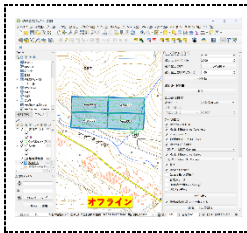
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	可搬式延焼防止装置		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(所属なし) 児玉 隆晃		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 今後予想される南海トラフ地震、首都直下地震でも火災の発生が想定されているがこの広範な地域のすべてを消防に頼るわけにはいかないと思います。 そこで大火としない為には火災の範囲を小さくすることが有効であることから延焼の原因となる飛び火の防御をする為にコンパクト、簡単操作、可搬式の延焼防止装置を開発した。本装置は電気等の動力を要せずに直方体の箱の中の装置を起動させることによってマストが起き上がり扇状に不燃性シートが広がって住宅等を飛び火から防御することを目的としている。これにより減災に繋がる。簡単に誰でも使えるユニバーサル設計となっている。		本文中の連番: 図2 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例 : 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
延焼防止			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			
「応募書類作成要領」2.2 の (3) に関して受賞作品例には該当するものは上記 2 機関にはありませんでした。過去にエントリーした作品一覧の中に下記 3 例がありましたが内容を確認することはできませんでした。 2019 年度 A—4 1 「延焼防止器具の開発」 平成 25 年度 1 9 「住宅火災延焼防止装置」 平成 25 年度 2 9 「延焼防止装置の開発に関する検討」			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	ドローンを用いた夜間搜索システム		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	一般社団法人 Japan Innovation Challenge		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 山岳遭難の増加を背景に、夜間・降雨時でも操縦技量に依存せず安全に搜索可能なドローンの夜間搜索システムを開発した。本システムは、自動飛行可能な産業用ドローン、高低差対応の飛行ルート作成ソフト、赤外線映像解析による要救助者特定ソフトで構成され、効率的な広域搜索を実現する。尚、本システムはオフライン環境下でも使用できる為、災害時の搜索活動でも使用することができるシステムとなっている。		本文中の連番: 図 8 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例: 消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
災害救助、搜索活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	紫外線 LED×UV カメラによる次世代型捜索救助支援ソリューション
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(株式会社キーサイエンス) 吉澤 勁
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 本ソリューションは、紫外線 (UV) LEDとUVカメラによる遠隔捜索を組み合わせた、次世代型の救助支援技術である。遭難時には、自然界に存在しないUV-C波長の紫外線LEDを点灯し、ヘリコプターやドローンに搭載したUVカメラでその信号を高感度に検出することで、昼夜を問わず、迅速かつ広範囲な捜索を実現する。紫外線LEDは、シンプルな構成で小型・軽量かつ低コストであり、安価な電池による長時間の連続運用が可能である。山岳、海上、災害現場など多様な救助シーンへの応用が期待されており、スマートレスキューを支えるインフラ技術として、社会実装が見込まれている。 本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等	
山岳遭難・水難事故、災害現場など多様な救助への対応	
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	区画制圧特化型伸縮ノズルの開発		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(ヨネ株式会社) 高雄信行		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 高気密・高断熱住宅の普及により、火災時のフラッシュオーバーやバックドラフトなどの危険性が増大し、従来の消火戦術では対応困難な場面が増加してきている。 これに対応するため、うるま市消防本部とヨネ株式会社が新型消火ノズルを共同で開発した。 遠距離からの放水を可能にする長尺構造と、ノズル先端からの多方向・粗粒且つ直進性の高い放水により、死角の多い屋内や高熱環境下でも安全且つ効率的な消火を可能とし、模擬家屋での消火実験や実火災でもその効果を確認したので報告する。		本文中の連番: 	
4 「開発」か「改良」 (該当するものを選択)	開発		
5 機器の利用分野 例：消火活動、救急救命、災害救助、火災予防、防災訓練、避難誘導 等			
消火活動			
6 先行する開発・改良との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載すること。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他インターネット等の類似品 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒			

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	消防ポンプ自動車のバイパスバルブに替わる使用方法と応用事例		
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(自宅) 天方 康雄		
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ3cm、ヨコ3cm)で貼り付けること。			
(字数制限 280 字に設定してあります) 放水を停止せずに1線吸水から2線吸水に切り替える時、バイパスバルブを使用する場合がありますが、バイパスバルブを使用せずに吸水する方法を説明します。		本文中の連番: 	
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒			

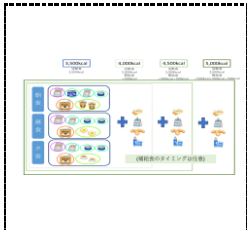
概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	消防用 150 mmホース等を延長した時にできる屈曲部分を軽減する方法	
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(自宅) 天方 康雄	
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は280字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。		
(字数制限 280 字に設定してあります) 遠距離送水システムで使用する消防用ホースを垂直方向に延長した時にできる屈曲部分(圧力損失)をいかにして軽減できるかを検証しました。		本文中の連番: 
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrfd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒		

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	大規模災害発災直後の災害対応活動における消防隊員のエネルギー摂取目安とその摂取法の提案
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(筑波大学) 麻見 直美
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 大規模災害発災直後の災害対応活動における消防隊員のエネルギー摂取量は、これまで我々が行ってきた研究から検討した結果、3,500～5,000kcal/日を目安とすることが妥当であると考えられた。本研究結果を具現化し現場で活用する方策として、実際に食事を準備する際には3,500kcal/日程度を活動食の基本として、活動隊種別毎に500～1,500kcalを補給食として追加することを提案する。加えて災害種別毎のエネルギー消費量および消防隊員のエネルギー摂取目安を算出する際に消防関連活動種別毎の時間あたりのエネルギー消費量の標準推定値を活用することを提案する。 本文中の連番: 	
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	

概要(必須)

・本頁は公開するため、個人が識別出来る写真、団体名、看板、ナンバープレート、エンブレム、マーク等の取扱いに注意

1 作品名	地域マルシェにおける火災予防策の実態と今後の課題
2 主たる応募者 (所属)氏名 又は 団体名	(医療法人糖心会べっぷ内科クリニック) 天花寺 祐紀
3 要旨と 公開用の図・表・写真 要旨は 280 字以内で記入すること。公開用の写真等は、「本文」の中から適したものを選び、電子データ(タテ 3cm、ヨコ 3cm)で貼り付けること。	
(字数制限 280 字に設定してあります) 地域活性化の一環として開催が増加する地域マルシェにおける、火災予防策の実態を調査した。京都府宇治市で定期開催されているマルシェを対象に、消火器の設置状況や可燃物管理の実態を分析した結果、防火意識の差や自治体ごとの届出基準の違いが、対策の統一を妨げていた。火気を扱う出店者の認識不足や管理不備も確認され、今後は防火基準の明確化と啓発活動の強化が求められる。 本文中の連番: 	
4 先行研究との相違 先行事例について、有無を確認のうえ、「有」の場合、相違を簡潔に記載してください。 先行事例の確認結果 ☐ 事例有 ☒ 事例無 <u>次について必ず掲載確認のうえ、その相違点を記載すること。</u> 消防研究センターHP (https://nrifd.fdma.go.jp/exchange_collaborate/hyosho/index.html) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ 一般財団法人全国消防協会 HP (https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/) 確認結果 事例有 ☐ 無 ☒ その他のインターネット上の文献の確認 事例有 ☐ 無 ☒	